

アクアングル

22-12

建設市場動向レポート

- 月次特集レポート -

株式会社アクア

2022年12月

ハイライト

RC造の躯体工事に関連する主要資材のうち、生コン価格の上昇がどうして起きているかにスポットを当てる。

背景： 原料価格の高騰

コンクリートの主原料であるセメント価格に関して、太平洋セメントなどセメント大手3社は、ウクライナ危機を背景とした燃料の石炭高を理由に、2022年10月よりセメント1トンあたり3,000円値上げを発表した。さらに、コンクリート生成に必要な骨材も輸送費の上昇に伴い値上がりしている。(Fig.1～Fig.4)



Fig.1 石炭価格推移

(出典：FRED)

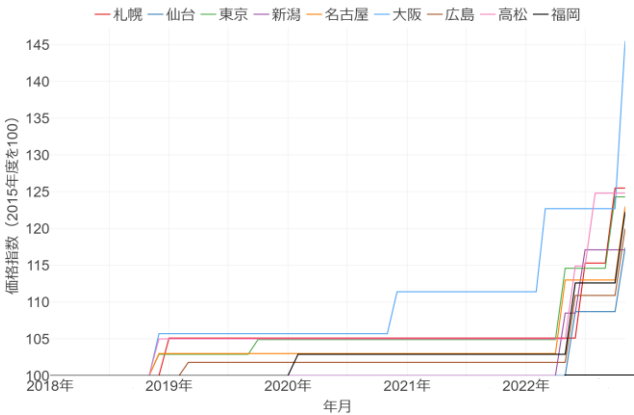


Fig.2 主要都市におけるセメント価格指数の推移 (2015年度 = 100)

(出典：経済調査会資料より作成)

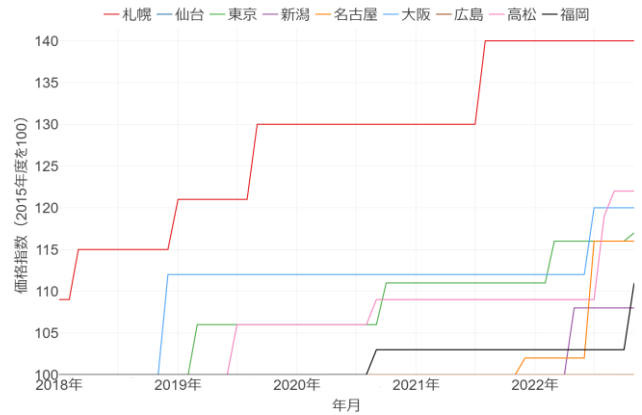


Fig.3 主要都市における骨材価格指数の推移 (2015年度 = 100)

(出典：経済調査会資料より作成)

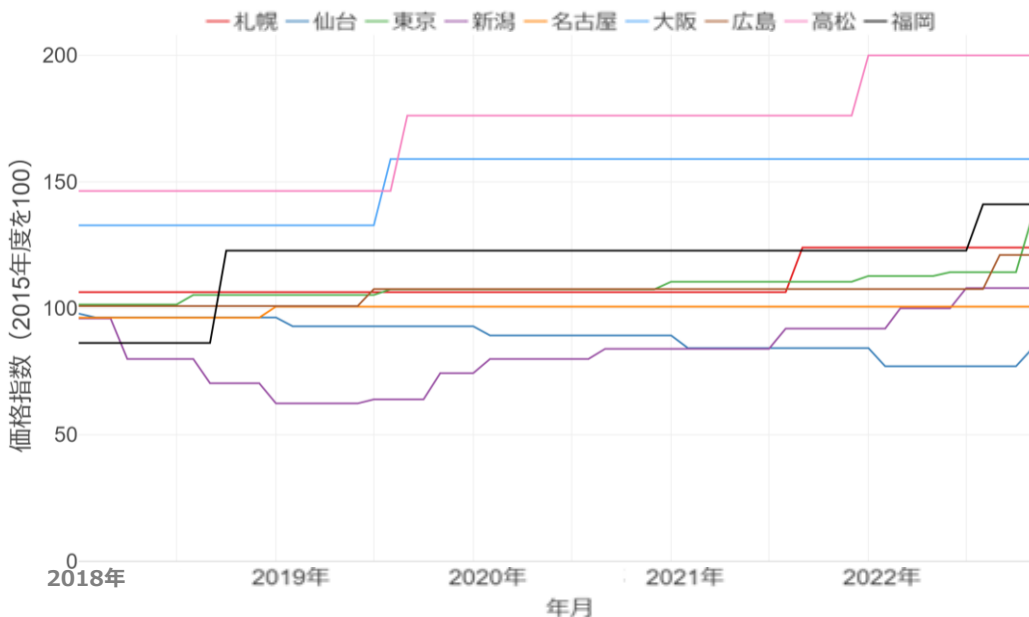


Fig.4 主要都市における生コン価格指数の推移 (2015年度 = 100) (出典：経済調査会資料より作成)

建築着工床面積

国土省の建築着工統計によれば、2022年10月の着工床面積は990万㎡と、前年同月比18.1%減となった。9月の2.6%減に続き、2か月連続の減となった。(Fig.7)

建築主別では、公共は2022年10月期前年同月比13.1%減で42万㎡であり、4か月連続の減となった。民間の10月期は、前年同月比18.3%減で948万㎡となった。(Fig.8)

もっとも、生コン価格は上昇しているものの、建設会社への価格転嫁は十分に行われていないという。経済産業省による全生連会員へのアンケート(※)で92%が大幅な原価上昇を訴えたものの、価格転嫁が難しかったり限定的だったりするケースが67%に達した。(2022年12/9 日刊建設工業新聞より)

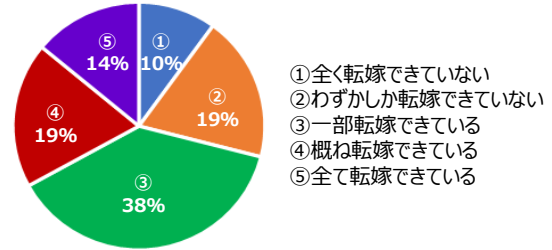


Fig.8 全生連 製造原価の上昇を受けた価格転嫁の状況 (出典：日刊建設工業新聞より作成)

※調査は10月25日から1か月間行われ、全生連会員219者が回答した。製造原価が「非常に上昇し収益・採算に甚大な悪影響を及ぼしている」は41%、「かなり上昇している」は51%。一方、価格転嫁が「全くできていない」は10%、「わずかしかできていない」は19%、「一部できている」は38%と厳しさを伺わせる結果となった。

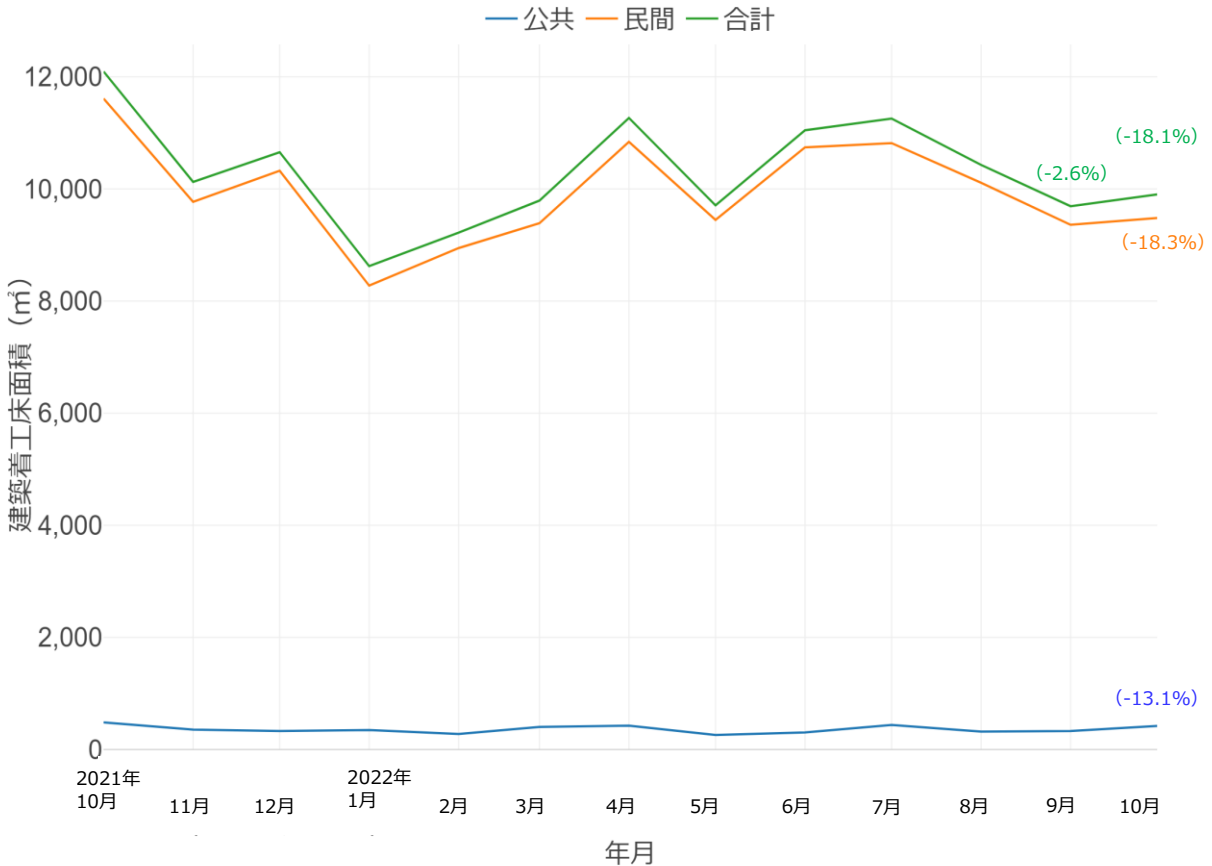


Fig.7 建築物月別着工床面積 前年対比 (出典：国土省資料より作成) ※ () は対前年同月比

アクアングル

株式会社アクア

お問い合わせ先

株式会社アクア
経営企画室・PMO
嘉村 香澄
〒101-0053
東京都千代田区神田美土代町 1 番地
住友商事美土代ビル 9 階
aqa4@aqa-pm.co.jp